

# 経営比較分析表（令和5年度決算）

兵庫県芦屋市 芦屋病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	26	対象	ド訓	救臨輸
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
94,780	17,045	非該当	非該当	7：1

※1 ド...人間ドック 透...人工透析 I...ICU・CCU 未...NICU・未熟児室 訓...運動機能訓練室 ガ...ガン（放射線）診療

※2 救...救急告示病院 臨...臨床研修病院 が...がん診療連携拠点病院 感...感染症指定医療機関 へ...へき地医療拠点病院 災...災害拠点病院 地...地域医療支援病院 特...特定機能病院 輸...病院群輪番制病院

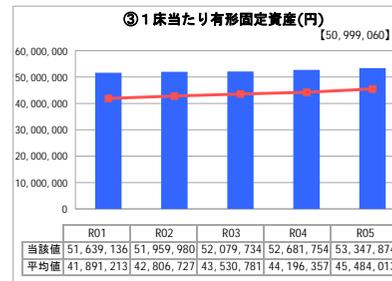
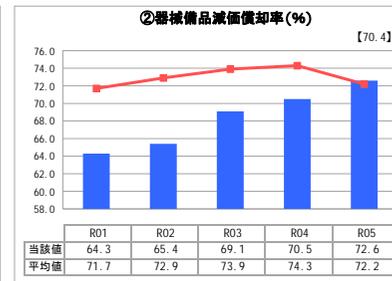
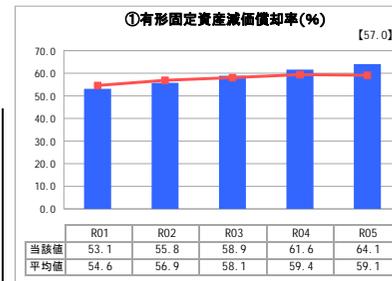
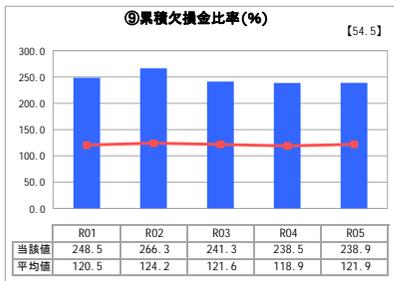
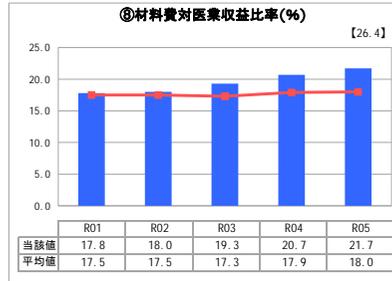
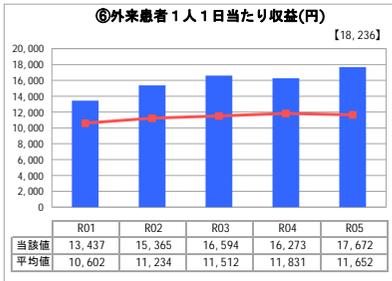
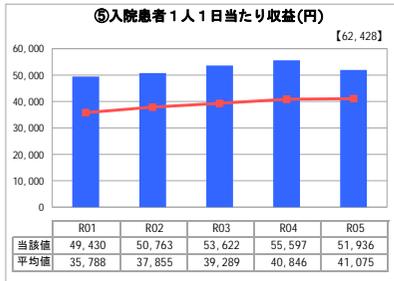
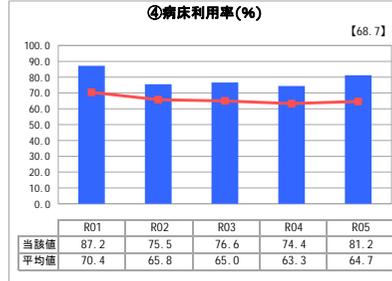
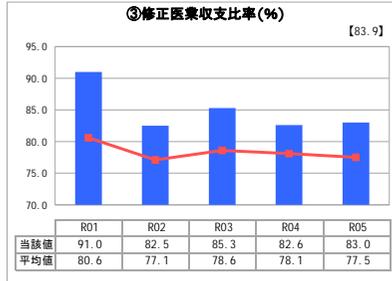
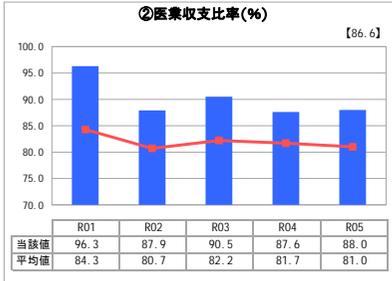
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
199	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	199
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
199	-	199

グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）

【】 令和5年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況

## 経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 （従来の取組・ネットワーク化を含む）	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

## I 地域において担っている役割

当院は市民の健康保持に必要な医療を提供する市の中核医療機関として、地域の診療所等との役割分担と連携により、救急医療を含め診療体制の充実を図っている。  
特に今後増加が見込まれるがん診療への取組（緩和ケア含む）、認知症合併患者への対応、心不全患者への対応、各種検診の推進に努めている。さらに、地域の後方支援病院として在宅患者急変時の受入医療機関としての役割を果たしており、療養後は住み慣れた自宅へ早期に復帰できるように在宅復帰支援への取組にも注力している。また、市内唯一の小児入院医療機関として診療を行うほか、地域の感染症対策を担う基幹病院として市内医療機関等に協力している。

## II 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

令和5年度は、医業収益においては入院・外来共に前年度の収益を上回ったものの、新型コロナウイルス感染症関連補助金等が減少したことが大きく影響し、総収益は減少しました。総費用についても、給料引き上げに伴う給与費の増加、抗がん剤等の薬品使用量増加に伴う材料費の増加などがあり、結果的に収支は467,441千円の純損失となり、経常収支比率は前年度より10.1ポイントの低下となりました。  
累積欠損金比率については依然として高い比率であり、継続的な収支改善の取組を実践することで、当該比率の減少を図ってまいります。

### 2. 老朽化の状況について

平成24年度の新病棟の改築工事が11年が経過し、有形固定資産減価償却率、機械備品減価償却率は増加傾向にあるものの、類似病院との比較において、著しく老朽化が進んでいる状況ではないと考えています。今後も当院の機能、必要性等十分に検討・協議し、計画的に更新を行ってまいります。

## 全体総括

5月8日に新型コロナウイルス感染症が5類へ移行となりましたが、依然として強い感染力であり、本年度も感染対策を講じながら通常診療を始めとした医療提供に努めました。  
経営状況については、新型コロナウイルス感染症の影響により本年度も厳しい状況となりましたが、コロナ禍を経て今後もさらに医療需要の変化が予測されます。  
引き続き市民の生命と健康を守る芦屋市の中核病院として役割・機能が十分に発揮できるよう経営改善、経営強化を図ってまいります。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。